

ブルーノ・タウトの死 山口文象

タウト氏の死は一月二十一日付の新聞紙によってもたらされた。これは真実なのだろうか。茫然と製図版の前に立ち、うなちを垂れて二年前の送別会における温容を懐かしく想うかべ、悲しいこの報せが誤報であれかしと祈った。

しかしそれから二三日をおいて、タウト夫人、上野伊三郎氏連名の訃信を手にするに及んで、実感としてはじめて受け取りことが出来た程である。私にはそれ程突然な驚きであった。

現代における世界最大級の建築家であり、文化の建設者であるタウトを失ったことは氏の偉大さを知る人の凡てが斉しく、この悲しみと驚きにひしがれたことであらう。まことに痛恨の念に絶へず、謹んで冥福を祈る。

タウト氏は一八八〇年ドイツのケーニヒスブルグに生れ、旧臘十二月二十四日、トルコの国府イスタンブールの自邸に於いて脳溢血に依る急逝に五十八年の生涯を終へたが、彼の最もはなばなしく活動した時代は、一九二〇年からフリーリヒトを主宰してゐた頃であつたらう。恰かも新興建築勃興の時に際会し、グロピウス、コルビュジェ、メンデルゾーン等錚々たる建築家と並び、その一方の雄として数多の価値多い建築の設計に才腕を揮ひ、又都市計画に斬新なアイディアを実現し、なかでも一九一四年ドイツのヴェルクブント展覧会に於ける「ガラスの家」は有名で、爾来ガラスは建築に於ける重要なエレメントとして効用性を発揮するやうになった。

一九二一年マグデブルグ市建築課長に就任するや、同志の建築物道路等を、色彩を以って塗り分ける大胆な計画を実行に移したことは余りにも著名で、色彩の建築家といへばタウト氏を思ひ出す程だ。

一九三一年ソビエト・ロシア政府の招聘により、故国を離れモスクー大建設のための事務局を創設する事業に従事したが、役職を辞し、一九三三年五月、日本インターナショナル建築会の招請に応じ、多年の宿願なりし日本芸術文化研究のため、敦賀に上陸の第1歩を印した。

以後三年有余に亙る日本滞在中、建築作品こそ殆んど作らなかったが、商工省工芸指所、あるひは群馬県工芸所において、民毛の指導に独自の力をいたし、傍ら日本文化の良き理解者、批判者、紹介者として『ニッポン』『日本文化私観』『日本建築の基調』及びこれはまだ邦訳されてゐないが、『日本の住宅と民衆』等を著している。

これらを通じて観られることは、彼が埋もれて他国に知られてゐなかつた日本の文化を、限りなく熱愛してゐるといって良い程である。彼程に日本の文化、造型芸術の泉に沈潜し、その奥に分け入り、これを欧米に紹介した人はなく、同国人のアーノルド・ファンクがかの映画「さむらひの娘」によって、日本を本の皮相的にしか海外に昇華しなかつたのに対し、彼のこの優れた功績は、



聊か吾々を慰むに足るものがある。

柳宗悦氏はタウト送別会席上に於いて、「ラフカディオ・ハーンが三十年前に為したことを、タウト氏は三年間で為し遂げた」と述べてゐるが、蓋し至言と言えやう。

彼の日本文化観は、屢倒錯され、芸術至上主義的観点から問題を解決せんとする嫌ひはあるが、しかしそこには彼独自の鋭く広い観方があり、日本人は優れた文化遺産をもちながら、それを忘却しすぎてゐるといふこと等、傾聴すべきものがある。

しかし何よりもここに忘れべからざることは、彼がこの上もなく民衆を愛して、その生活に限りなき理解を持ってゐたことで、驚くべきことには民衆や庶民文化の中に突入せんと試みさへし、またそれをある程度果たしてゐることである。

彼の審美眼は非常に犀利なるものがあり、例へば日光廟を醜悪なる建築の代表物とし、桂離宮をパルテノンにも比すべき命建築の推賞したことは、彼の専門の領分故、偉とするに足らぬとしても、たまたま床の間研究がきっかけとなり、日本画に興味を抱き、日本画のなかに洋画に匹敵する美を見出し、雪舟、永楽、探幽から蕪村、玉山、大雅、竹田等を激賞し、これらの偉大な人たちを無視して世界的な名声とは抑々なんであらうかとまで極言しているのである。

彼はまた桂離宮造営の建築家小堀遠州にいたく私淑し、日本を後にトルコへ去ってから、己が書齋に遠州の肖像を掲げてゐたとのことで、今夏にはトルコ国立工科大学の学生数十名を引率して、遙々日本を訪れる計画さへ樹ててゐたのである。彼はトルコに在って国王ケマル・パシャの親任厚く、国会議事堂その他の設計に従事してゐたとのこと、せめてそれだけのことででも晩年を慰められたことだらう。

いづれにしても吾々若い日本の建築家には忘れ得ない印象を残して去った。文化探求の底の知れない熱情と、ものの核心を突く的確な把握力は、彼の円満な人格と対照して、まことに鋭いものがあつた。世界に再考の文化人を吾々は失つたのであるが彼の日本文化に対する熱烈な愛着によって、獲得した意義高い仕事は、必ずや永遠に吾が国建築家達の胸奥に強く彫ざまれることであらう。

重ねて偉大なる建築家、高き文化人タウトの冥福を祈る。